第 34 回北海道柔道整復専門学校卒後教育講演会

令和２年２月 16 日（日）午前９時 30 分より、北整会館４階講堂において北海道柔道整復専門学校卒後教育講演会が開催されました。

西巻英男教務次長の司会で、はじめに長谷川源教務部長より開講が宣言されました。校主挨拶で萩原正和北整会長は業界関連では柔道整復療養費受領委任を取り扱う施術管理者について、学校関連ではカリキュラム改正による超音波画像観察の授業導入、さらに国家試験の変更点について説明された後「今日一日しっかり学び、明日からの仕事に役立てていただきたい」と述べられました。石井詩都夫副校長はこの卒後教育講演会はベテランの先生が新人の先生方を育てていく会として役割を担っているとして「講演会・懇親会を通じて北海道柔道整復専門学校の卒業生が広い繋がりと固い団結力を続け、さらに盛り上げていただきたい」と述べられました。続いて来賓挨拶では筒井寛幸同窓会会長より同窓会活動として会員相互の親睦を図ること、北海道柔道整復専門学校の発展を助成する役割を担っていることを伝えられ挨拶とされました。

講演１「函館ブロック活動：肘関節集団検診報告」

公益社団法人　北海道柔道整復師会　理事　工藤　重孝先生

函館ブロックでは平成 29 年よりＨＳＢＭ（函館骨軟部組織学術委員会）の会員・研修生合わせて 35 名が函館市スポーツ少年団に所属する少年野球チームの肘関節集団検診を行っており、令和元年からは函館五稜郭病院整形外科・佐藤攻先生と理学療法士の方々の協力を得て理学検査を並行しながら行っていると述べられました。

当初集団検診を開催するにあたり、函館市スポーツ少年団本部長に打診したが日程等の都合によりなかなか開催できなかったが、平成 29 年 11 月に函館市スポーツ少年団体力測定に合わせて開催できることが決まり、ＨＳ

ＢＭ会員には開催前に超音波勉強会を行いスキルアップし検診を行ったと説明されました。

検診は体力テストの合間に受付や検診票の記入・超音波検査・理学検査を行い、スポーツ少年団へ集計結果と異常のあった２次検診必要団員を報告する経緯を説明され、集団検診を行うにあたりポータブル式超音波を持参できる先生や、(株)SSB の協力を得て７～８台の超音波で行ったことや新聞で紹介されたことを報告されました。

問題点として検診を行うだけではなく、異常を認めた団員には２次検診の案内を渡し検診に参加した整骨院から整形外科へ予約し、予後や復帰について確認することが大事と述べられ、検診の様子や結果、日本の学童野球ガイドラインやアメリカリトルリーグのガイドラインについても説明されました。

最後に画像を用いて症例報告され、超音波の重要性や検診の課題・意義を述べられ講演を終えられました。

講演２「柔道整復師が医療貢献するために知っておくべきこと」
北海道大学大学院医学研究院　生化学分野分子生物学教室　教授
北海道柔道整復専門学校　講師　佐邊　壽孝先生

はじめにリンパ管の基本機能ではリンパ節は獲得免疫応答開始の場であると説明したのち、何がリンパ液・リンパ球を流すのか？という問いに対して、骨格筋運動やストレッチがリンパ液・リンパ球を流すと述べられ、骨格筋運動やストレッチは免疫機能に必須であり柔道整復術は自分で十分にできない人への補助手段となり、免疫機能を促進すると説明されました。また運動トレーニングと生命予後の話では筋肉は最大のホルモン産生臓器であると説明されました。

続いて心不全（HF）の疫学では心不全患者の生命予後は運動能力に依存するとして、慢性心不全患者の運動能力は心機能ではなく骨格筋機能と相関すると説明され、またリノール酸と心不全の話では心筋カルジオリピンの低下が原因の一つであり、適度なリノール酸摂取で心機能は改善すると説明されました。また心不全だけでなく加齢や疾患による運動能力低下に対する治療法の確立が必要であり、柔道整復術も心不全の予防や治療に大きく貢献できるとし、実際にどうすべきか本気で効果に関する臨床試験を行うべきであると提案され〞楽しく運動しないと意味が無い〞として、明るい希望を持つことは免疫系を活性化すると述べられました。

最後に癌に関するお話では脳内報酬系（ドパミン神経回路網）は癌免疫を促進すると述べ

られ、その他抗がん剤治療や活性化 T 細胞機能などについて最新のトピックスを報告され講演は終了となりました。

講演３「腰背部痛に対する治療」
札幌医科大学　細胞生理学講座・整形外科学講座　　寺島　嘉紀先生

はじめに日本人の症状別有訴者率のグラフをもとに腰痛・肩こり・関節痛が多いことを挙げられ、痛みの分類として急性期・亜急性期・慢性期に分けられ、それぞれについての期間・年齢・部位について詳しく述べられました。

続いて腰痛を例に社会的影響や仕組み、原因と症状など x－ｐ画像や MRI 画像を用いて痛みに対する分類や疼痛の判定方法を説明されました。

次に薬物療法では疼痛治療薬を大きく３種に分け、各薬剤の特徴や効果、内科的疾患がある場合など長期投与に対する注意点も解説されました。

また代表的な脊椎疾患として腰痛の原因となる運動器・神経・内臓・血管・心因性など痛みの発生機序から薬の選択方法、発生メカニズムや手術方法、理学療法など最新の治療法を説明され講演を終えられました。

（公社）北海道柔道整復師会（広報部員　大石　隆之）